

協議案件 2

【概要および協議事項】

水鳥保護の管理等について苦慮することがあった。以下について意見交換を行いたい。

- 1) 水鳥の骨折の治療方法
- 2) 飼養方法
- 3) 趾瘤症予防対策
- 4) 撥水性がなくなってしまった場合(リリースしてみて気付くことが多い...)
- 5) リリースしたが、あまり上手く泳げなかった場合の対応(なかなか再保護難しい)
- 6) 水鳥で全く採食が見られなかったケースはあるか? 強制給餌の方法は?

【事例概要】

① 外傷なしオオミズナギドリ(2020年保護)

11月3日 搬入。嘴先端が少し折れて出血しているほかは外傷無し。栄養状態良好。

11月5日 一刻も早いリリースが良いと判断し、リリースした。保護から2日しか経過していなかったが、撥水が無く、沈みがち(動画あり)。再保護もできないためそのままリリースとなった。



② 骨折オカヨシガモ(2020年保護)

12月2日 搬入。左翼骨折。オペしたが翼は下がっている。保護後、プラ衣装ケースにて療養。餌を全く食べない。

12月8日 6日経過しても食べないため強制給餌+プリンペラン。

12月15日 広いスペースに移すが、やはり採食なし。

12月21日 骨がくっつく頃合いを見計らい、リリース。意識しないと左翼は下がってしまうが泳ぎは問題なさそうだった。

③ 翼骨折のオオバンのケース(2020年保護)

12月7日 搬入。上腕骨2か所開放骨折+橈骨骨折。オペ骨折整復を試みるがあまり上手くいかない。安静保つため、衣装ケース(プラケース)で療養。採食良好。

12月23日 趾瘤出来始めたので、広いケージに移すが、暴れたようで爪を損傷し、出血。再度衣装ケースに戻す。翼の状態は良ならず。

12月26日 骨折側の翼は落ちたまま、翼の可動性変化なし。骨折箇所熱感あり。

1月8日 翼の状態変化ないが、痩せてきたので川にリリース。羽根の撥水性が無いようで、沈みがち。しげみに上陸して身を隠した。そのままリリース。